

# 2016～17年度第二外国語学習授業外支援活動報告 —2gai café、「ことばのフェスティバル」を振り返って—

飯塚 君穂・好並 晶

## 1. はじめに

2008年、当時の語学教育部内部で始めた第二外国語スピーチイベント「ことばのフェスティバル」も、2017年度には第十回の催行を果たした。本報告は、十年目の節目を迎えた「ことばのフェスティバル」の挙行に関する成果と振り返りを中心にしつつ、同時に2016年度～2017年度に新機軸として展開した学習支援拠点＝“2gai café”の活動について記録を行なうものである。

「ことばのフェスティバル」に関しては、初回から第五回までの開催主旨、並びに活動内容の報告が残されている<sup>1</sup>。本学・旧語学教育部時代に提案、挙行された本イベントは、当時の前期期間（6月中旬頃）に開催されていた本学学生と本学留学生の交流会「パートナーシップ」（2008～2012年度）と連動しながら、日本人と留学生との連携を強めていく目的を内包していた。しかしその連携が有機的に継続、発展するには様々な困難があった。また、2013年度以降、「パートナーシップ」が国際交流室（現・インターナショナルセンター）の開催する国際交流活動に代替されることにより、「ことばのフェスティバル」が独立したイベントとしての継続を余儀なくされた。その窮状の打開を目指し開かれたのが、旧「第二外国語学習相談室」（2013年度～2015年度）であった。前述の“2gai café”はそれを継承しつつ、独自の発展を目指した学習支援拠点であると言えるだろう。

なお、上記二活動の企画、実行は、近畿大学全学共通教育機構教養・外国語教育センター内広報出版委員会「ことばのフェスティバル」実行委員のメンバーである飯塚君穂（委員長、立案・実行）、好並 晶、熊谷哲哉、原田 信（2016年度）須賀井義教（2017年度）、幸福香織（2017年度）、高橋 梓、小島大輝によるものである。

## 2. 活動実施内容

本章では、2016年度～2017年度における“2gai café”と「ことばのフェスティバル」の具体的活動を報告する。

## 2.1 “2gai café”

本活動は、旧「第二外国語学習相談室」が目的に掲げた「第二外国語履修学生のうち、より高いレベルでの学習を希望する学生、または学習上の困難を持つ学生に学習上のアドバイスを行なう」<sup>2</sup>ファクターを継承しつつ、学生がより親しみやすいよう、第二外国語各系列スタッフが企画、開催するイベントを別箇に設けた。また、学生からの相談や質問を受け付け易いよう、メールでの問い合わせ（公開アドレス：2gai.cafe@gmail.com）に対応する形を採った。

### 2.1.1 2016年度“2gai café”開催に関する記録

以下、2016年度における活動を具体的に記録しておく。

#### 【前期】

日時：7月4日～7月15日

場所：11月ホール3階307号室（旧・第二外国語学習支援室）

活動内容：第二外国語に関する学習上の質問や、留学相談などを受け付ける。

参加学生人数：計45名

#### 【後期第一次】

日時：10月3日～10月7日

場所：11月ホール3階307号室、11月ホール4階旧語学センター教室など

活動内容：第二外国語各系列教員によるイベント開催

ドイツ：映画上映会　フランス：シャンソンギター演奏会

中国：中国茶と中国映画のつどい　韓国：茶話会と文化ミニ講座

参加学生人数：計11名

#### 【後期第二次】

日時：2017年1月17日～1月23日

場所：11月ホール3階307号室

活動内容：第二外国語に関する学習上の質問を受け付ける。

参加学生人数：計4名

### 2.1.2 2016年度“2gai café”活動に関する振り返り

稼働休止状態となった11月ホール307室を、学生が立ち寄り易い雰囲気とするため装飾を施し、また、来室学生に茶やインスタントコーヒーを出せるよう、紙コップやポット、冷茶用のアイスボックスを持ち込んだ。更には、簡易ラジカセやプロジェクターをセットしてミニシアター風に部屋を使用できるよう工夫した。なお、ペットボトル茶は学

務部より提供を頂いた。

旧「第二外国語学習相談室」を継承した活動は、公費留学を目指す学生からの相談や、試験前の不明点、質問事項を持ち込んでくる学生の対応が主なものとなった。開室時間を、前期7月中旬、後期（第二次）1月中旬と設定したのは、定期試験前の学習を支援するためである。なお、前期の活動に多くの学生が参加したのは、第二外国語教員による授業内での告知や宣伝の効果が大きかったからである。いかに所謂“口コミ”が重要な宣伝媒体となっているかが判る典型例であろう。

特記すべきは、旧「第二外国語学習相談室」時期には設定されていなかった、後期第一次の第二外国語各系列教員主催によるイベントであろう。上記の通り、各系列の教員が専門分野や得意分野を活かし、各々特徴のあるイベントを開催した。公示、宣伝に十分な時間がなかった為、参加学生が多かったと言いはるが、興味関心の高い学生は自ら情報を獲得してイベントに足を運んだ。これらの学生の中から、一か月半後に開催される「ことばのフェスティバル」に出場する学生が現れたことは、本イベントが学習支援活動として有機的に機能したことを示している。

残念なのは、本来予定されていた飯塚委員長主催による日本学生と本学留学生との交流会が、当日の台風休講によって不催行になった点である。これは、翌2017年度に繰り越される重要な活動事案であった。

### 2.1.3 2017年度“2gai café”開催に関する記録

以下、二年目の“2gai café”活動の具体的な記録である。

#### 【前期】

日時：7月10日～7月14日

場所：2号館 ACT125室

活動内容：第二外国語に関する学習上の質問や、留学相談などを受け付ける。

参加学生人数：計16名

#### 【後期第一次】

日時：10月3日～10月7日

場所：18号館1階通信教育部ラウンジ・1号館3階インターナショナルラウンジ

活動内容：第二外国語各系列教員によるイベント開催  
ドイツ：映画上映会「映画で旅するドイツ」  
フランス：「フランス菓子とギターのサロン」



ACT125室に掲げた“2gai café”の看板



イベント拠点となった通信教育部ラウンジとポスター

中国：「留学生交流会」・「中国茶と映画のひとつとき」

韓国：茶話会「K-pop ～韓国茶とともに～」

参加学生人数：計 115 名

#### 【後期第二次】

日時：2018 年 1 月 15 日～1 月 19 日

場所：1 号館 3 階インターナショナルラウンジの一角

活動内容：第二外国語に関する学習上の質問を受け付ける。具体的内容として、短期研修から長期留学への変更手続についての相談、検定試験受験についての相談、近大生・留学生交流サークル立ち上げについての相談など。

参加学生人数：計 2 名

#### 2.1.4 2017 年度 “2gai café” 活動に関する振り返り

2016 年度と比較して大きな進展を見せたのが、後期第一次活動であるイベント開催であろう。一年前に天候不順で不催行となった近畿大学生と本学留学生との交流イベントは、インターナショナルセンター所属の日本語教員、高橋朋子先生の協力を得て、1 号館 3 階のインターナショナルラウンジを埋め尽くすほどの活況となった（写真参照）。このイベントを機に、日本人学生と留学生との交流サークルを作る動きも既に見られている。以前より多くの留学生を迎えながら、本学学生との邂逅と交流が大々的に行われていない現状への、一投石になればと願う。



満員の留学生交流会会場

また、系列毎のイベントでも、例えば基礎ゼミ受講生への呼び掛けや同じ言語を学ぶ学生同士の体験学習参加が功を奏し、通信教育部の多目的ラウンジを満たす参加学生を得ることが出来た。それだけではなく、西門に近い教室が開催拠点であったため、下校途中の学生が立ち寄るなど意外な吸引力を産むこととなった。

対照的に、前期と後期第二次に開室した学習相談ブースは、大きく振るうものではなかった。一因として、2016 年度に活動場所であった 11 月ホールの 307 室が、改装準備のため使用不可能となり、本活動の拠点が喪われたことが挙げられる。アカデミックシアター内の ACT 室は学習相談に適した環境ではあったが、後期第二次活動に用いたインターナショナルラウンジは、主に国際学部生の自習室としてフル活用されており、その一角に学習相談ブースを置いたとしても、他学部の学生が立ち寄り難い雰囲気となってい

た。拠点を失くし、我々委員会委員が学内ブースを彷徨うのはやむを得ないことではあったが、学習支援を行なう際に一定の活動拠点が定められなければ、支援する側の教員にも、またそれを利用する学生にも有益ではない点を指摘せねばなるまい。

総じて、“2gai café”は実行委員会としても手探りの活動であったが、当初の目的であった「学習言語圏に対して広汎な興味関心を持つ契機を学生に与える」<sup>3</sup>要素は相応に達成したと言えよう。留学生との交流会は、催行の打切を余儀なくされたかつての「パートナーシップ」の機能を十分に補った活動であったし、各系列イベントの開催も担当教員が創意工夫で作りに上げる各言語のアピールの場ともなった。担当委員の交替により、この活動が今後も同様に継続されるかは定かでないが、学生に学ぶ場と機会を与える、という意味において、この活動は一定の意義があったといえよう。

## 2.2 「ことばのフェスティバル」(第九回・第十回)

今は無き本学11号館の5-4会議室に無理矢理ステージを作り、第二外国語に関してまだ十分なスキルの無い学生に教員が声を掛けて出場を依頼、正に“手作り感”に満ちたイベントとして出発した「ことばのフェスティバル」は、回を重ねるにつれて出場者の語学レベルが向上し、スピーチイベントとして充実したものとなった。また、旧・語学教育部という局地的な主催拠点が全学共通教育機構へ移管されることによって、学内におけるイベント開催の厳然たる立ち位置を獲得したと言えよう。しかしその一方、本イベントのパターン化が進み、出場学生、観覧学生へのアピール度と共に、本イベントを企画・推進する教員スタッフの意識にも低下が起きていたことは否めない。本報告では、今までの定石を踏襲しながら若干のマイナーチェンジを施して催行した2016年度第九回と、十周年記念として新機軸を盛り込んだ2017年度第十回の企画・実践を記録しておきたい。

### 2.2.1 2016年度「第九回ことばのフェスティバル」開催に関する記録

以下、2016年度第九回の「ことばのフェスティバル」に関する具体的記録である。

日時：2016年12月7日(水) 16:30～18:00

場所：Blossom Café 3階 多目的ホール

発表者数：22名

(外国語スピーチ部門：12名、日本語スピーチ部門：3名、パフォーマンス部門：1組7名)

観客数：約60名

発表内容：ドイツ語、中国語、韓国語、日本語によるスピーチ、中国語の短劇

審査結果：外国語スピーチ部門 1位 経営学部3年(中国語)

論題：「わたしを変えてくれた中国語」

2位 経済学部2年（中国語）

論題：「青蛙<sup>カエル</sup>がくれた<sup>幸せ</sup>幸福」

3位 文芸学部4年（韓国語）

論題：「私の趣味」

日本語スピーチ部門 1位 経営学部1年 論題：「私と趣味」

※パフォーマンス部門については出場組が一組のみであったため、審査外

## 2.2.2 2016年度に関する問題点など

2016年度は前年度の形式を踏襲しながらの企画であったが、前年度の反省を受けて、若干の変更を加えた。それは、外国語スピーチ部門におけるテーマの「緩やかな統一」である。2015年度以前の本イベントにおいて、関係者を悩ませていたのが審査結果の決定であった。各系列の出場学生は各々自らの興味や関心に沿ってスピーチを展開するが、審査員として参加している第二外国語教員が総括的に採点する際、喋る内容のよさと、言語運用能力の高さの何れに重きを置くかによって評価が大きく割れるのである。スピーチが全て終わった後、採点に長い時間を費やしたのはこの所為であった。

この作業を少しでも簡易化するために発案したのが、スピーチにおける「ワンテーマコンペ」形式であった。緩やかではあるが、同じテーマについて学生がスピーチに取り組むことにより、喋る内容に関するバラツキが少なくなる。2016年度においては、大まかなテーマとして「私の趣味」を提起した。

だが、この決定は本イベントの広報が例年よりも半月ほど遅れることによって新たな問題をもたらした。第二外国語セクションの中には、後期開始直後より本イベントに向けて学生の個人指導を行なっている積極的な教員がおられる。先にその練習を始めている学生にとっては、ワンテーマに絞られることによってスピーチ内容が合致しなくなる、という指摘が挙げられた。委員会からは、ワンテーマに絞っているとはいえ「私の趣味」はかようにも読み替えの出来るテーマであり、寧ろその語り口に工夫を凝らすことでスピーチ能力を高めて欲しい、と説明、依頼した。これは学習支援委員会が本イベントの告知・広告を出す時期を遅らせてしまったところに責任があるが、逆に言えば、本イベントに出場する学生が教員の指導・協力を得てスピーチに臨んでいる、即ち、留学生との交流や相互学習によってスピーチを完成させていく、という本イベントの元来の目標から乖離している点を浮き彫りにした。旧「パートナーシップ」が実質的に消滅し、近大生と留学生の接点さえ求められなくなったいま、この「元来の目標」を達成するのは非常に困難なこととなっている。

だが、教員が学生のスピーチ指導を行なうこと自体、決して否定されることではない点は附言しておきたい。2016年度は「外国語スピーチ部門」第一位、第二位を中国語学習学生が獲得したが、これらの学生を見ても教員から個人指導を受けたり、旧・語学センターで教員に出場を薦められたことが出場の契機となっている。各学部に分属している第二外国語教員が、学習意欲盛んな学生に本イベントへの出場を呼び掛け、指導・協力するのも、全学学生学習支援を旨とする本イベント開催意図に合致するに違いない。

なお、入賞枠からは外れるが、「パフォーマンス部門」で台湾・中国の留学生とコントを披露してくれた経営学部の男子学生は、個人的に中華語圏の留学生と広く交友関係を保っており、近大生と留学生との新しき友好のありようを見せてくれた。

### 2.2.3 2017年度「第十回ことばのフェスティバル」開催に関する記録

日時：2017年11月29日（水）13：15～16：30

場所：2号館実学ホール

発表者数：23名

（外国語スピーチ部門：15名、日本語スピーチ部門：6名、パフォーマンス部門：2組10名）

観客数：約160名

発表内容：ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、日本語によるスピーチ  
中国語・日本語によるコント

審査結果：外国語スピーチ部門 1位 文芸学部3年（ドイツ語）

論題：「世界遺産」

2位 経済学部4年（フランス語）

論題：「将来目指す姿に向けて」

3位 経営学部4年（フランス語）

論題：「私の夢」

特別賞 総合社会学部2年（韓国語）

論題：「私の叶えたい大きな夢」

日本語スピーチ部門 1位 薬学部4年の留学生

論題：「モノ・カラ」

2位 経営学部3年の留学生

論題：「今、大切にしていること」

パフォーマンス部門 1位 経営学部3年（日本語）

論題：「究極のファイル」

## 2.2.4 2017年度に関する評価点、問題点など

十周年のイベント成功を目指し、学習支援委員は早めの告知・宣伝活動を始めた。年度始めには全学共通教育機構会議にて第一回（2008年度）から第九回（2016年度）までの回顧と、第十回の告知を合わせたパワーポイント広告映像を公開、生物理工学部、農学部の委員にも広報活動を行った。

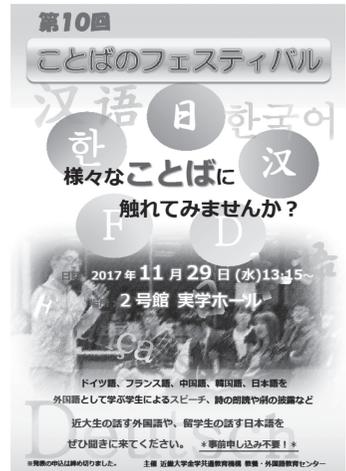
また、2017年度後期には学習支援委員会会議を重ね、催行時期、開催時間の見直しから検討を始めた。結果、上掲のように開催時期を約一週間早めて参加者、特に観覧学生を獲得する方向性を打ち出した。

これは全学共通教育機構からかねてより挙げられていた、「より多くの学生の参加を」との要請を受けてである。学生の多数参加を目指し、催行時間を水曜3限より開始、参加協力を得られる教員からは担当科目の履修学生の観覧を募る、という方法を採用した。この点には第二外国語教員からの疑義や反発が向けられたが、「スピーチに情熱を向ける学生たちの姿を見ることが他学生にとり大きく刺激となる」との説得の末、当該時間からの本イベント開始に漕ぎ着けた。その結果、新設の2号館実学ホール全体を満たす約160名の観覧学生を擁し、十周年に相応しい規模のイベント開催となった。

本イベントの挙行形式は例年と変わりはないが、前年度同様、「ワンテーマコンペ」形式は今回も継承し、「私の夢」と題した。第十回記念として加えた新たな試みとは、先ず、事前宣伝としてはUNIPAで宣伝チラシ（写真参照、小島教員によるデザイン）をアップするほか、各学部に設置されている広告用モニターにイベント三日前より映像宣伝を放映した。当日には、OPアクトとして告知PPTをアレンジした当日用映像を、音楽付で公開した。本イベントが10年の歴史を経ている点を出場、観覧学生に知らせるためである。

また、司会担当である国際学部・酒匂康裕教員のサポート役として、嘗て本イベントに連続出場したことがある卒業生に出場を依頼、司会補佐や「ことばのフェスティバル」に出場した思い出を語って貰った。他にも、2016年度の外国語スピーチ部門優勝学生から短いコメントを貰うなど、OBやOGの登場機会を増やした。学生たちが本イベントで成長しているさまを可視化する目的がここにはあった。

最も特徴的だったのは、2016年度に外国語スピーチ部門第二位の学生が、翌年中国の常州大学に交換留学に赴



演奏中の高橋教員と  
手作りの賞品桶

いており、映像会話が可能なアプリケーション“ We chat ”を用いてその学生と中継会話を  
を行なうというコーナーを設けた点である。予定していた時間に通信が巧く繋がらず、時  
間を変更しての通信となったが、「ことばのフェスティバル」出場を機に長期留学を思い  
立った学生の姿は、観覧学生に大きな刺激を与えた模様である。

更には、表彰式の際のドラムロールや音楽を生演奏で行なうべく、法学部・高橋教員  
がエレキギターとアンプを持ち込み、司会と会話をしながら演奏を披露した。また、数年  
前より入賞学生に授与される記念品が図書カードとなって見映えがしない為、スチロール  
板で賞品箱を作り、授与の際に用いるなど、第十回を機に改めて手作り感を演出する工夫  
を施した。

本イベントで顕著に見られるのは、入賞学生のスピーチ言語が2016年度の東洋言語優  
勢状態から西洋言語へとシフトしていることであろう。これは、前年度の中国語一位、二  
位独占を受け、西洋言語の教員が出場学生の育成に力を傾注した影響であると考えられ  
る。このように、「ことばのフェスティバル」は同じ第二外国語でありながら、西洋／東  
洋の良きライバル関係を保持する教員同士の牽引力ともなっている。



出場者・観覧者で満員となった会場



中国・常州大学留学生とのチャット場面



2017年度第十回「ことばのフェスティバル」入賞者・出場者記念写真

だが同時に、今なお形式上は残している出場者とパートナー留学生との関係が、年々薄れているという現状は重く受けとめねばなるまい。2017年度に“2gai café”活動で行なった「留学生交流会」に参加した近大生と留学生が、「ことばのフェスティバル」で協力しあう関係性を創っていくためには、この二つの活動が暫く継続されていくことが大前提となるだろう。

2017年度の「ことばのフェスティバル」開催において大胆に実行しながらも大きな課題を残したのが、開催時間に関する案件である。第十回を大々的に挙行するという大前提があったとはいえ、本来授業枠である水曜3限に履修学生を本イベントに動員させるという方法には、第二外国語セクションの中でも賛否両論が生じた。多くの学生たちが本イベントに触れる絶好の機会であり、観覧学生の本イベントに対する印象も概ね好いものではあった（本稿末「参考資料」参照）ものの、彼らが持つ“瞬間温度”＝その時限りの熱気は、概して冷めやすいものである。また、二時限分の開催時間は出場学生・観覧学生にとり長すぎたようだ。以降、「ことばのフェスティバル」を継続開催する上で、この二つの項目には十分な配慮が必要となろう。

### 3. おわりにかえて——今後の第二外国語学習支援のありかた

以上、2016年度・2017年度の学習支援活動、“2gai café”と「ことばのフェスティバル」に関する報告を行なった。ここで、今後の第二外国語学習支援の活動のありかたについて、個々の事例を挙げながら心象を述べたい。

#### ① “2gai café”を利用する学生は“特殊”ではない

旧「第二外国語学習相談室」の時代からそうであるように、学習相談ブースを開いても学生が大挙してくるわけではない。しかし少数ながら、授業での不明点が解決できてないので教えて欲しい、と友人と連れ成って来室する学生は、「これで何とかテストを乗り切れそうだ」と安堵の表情を見せる。彼ら彼女らの喫緊の問題を解決する場として、“2gai café”は確かに機能した。またごく稀な例として、「留学を考えているが、行ってよいものだろうか」と、当番の教員に背中の一押しを貰おうとする学生もいた。当然、その学生の家庭状況や学習進度、留学へ向ける目標と意気込みなどを十分に酌んだ上ではあるが、大学生の間でしか得られぬ経験をしようとする学生の決意を支持することもまた、学習支援の大きな任務である。利用人数が少ないからといって、彼らが有している問題群は、決して“特殊”なことではない。重要なのは、“2gai café”のような学習支援拠点を継続していく際、学生たちにその存在を如何に告知、アピールするかである。

#### ② 局地的な留学生交流活動について、及び「学生主体」のあり方

第二外国語教員が旧「パートナーシップ」をはじめとして近大生と留学生の橋渡しに尽

力していた時代と比較すると、局地的ではあるが近大生と留学生の距離が学生達の能動的な活動によって縮まりつつあることを確認できる。総合社会学部では中国留学生が「日本人学生との交流サークルを作りたい」と、2016年度に「中国語サークル」を学部内で設立、週一回の活動を行っていた。理工学部の学生は、2017年に広く国際交流サークル“oasis”を立ち上げ、インスタグラムで多く参加者を募っている。また、国際学部インターナショナル学科一期生は、英語圏での留学中、中華語圏の若者と多く知り合ったことを機に、中国留学生との交友サークルを鋭意設立中である。近大生と留学生の交流の場がこのように局地的ながら萌芽していることは、歓迎すべきことではないか。

同時に、学習支援委員会が主催する“2gai café”や「ことばのフェスティバル」は如何に存在すべきなのか。ここには「学生主体」の活動と、「教員によるサポート」との有機的連繋の問題が存在する。ある第二外国語教員からは、「教員が愉しむのではなく、学生がより多く参与するアカデミックなイベントにすべきだ」との意見を頂戴した。イベントを企画・実行するには、膨大なタスク量を短期間に、且つ教員同士の連携でこなして漸く催行に持ち込むことができる。それを「学生のために」と喜んで引き受ける一種のボランティアが無ければ、到底イベントなど動かすことができない。だが、上記のような局地的国際交流活動が見られる現状があるのならば、学習支援委員会のイベントを彼らの通常活動にリンクさせて運営する可能性は充分にある。「アカデミックなイベント」を一足飛びに実現するのは困難であっても、何れ学生側より新しい提案が提起されるかもしれない。教員が牽引するのではなく、学生の主体的運営を教員が後押しする国際交流活動を期待したいものである。

だが、学生の組織力を過大評価できないのも事実だ。上記の総合社会学部内「中国語サークル」は、中国人留学生と近大生との連繋が上手く成立せず、二年の活動期間を経て活動終了を余儀なくされた。そこには教員の適切なアドバイスやサポートが必須となるう。

### ③ 学生に機会・場所を提供することの重要性

上記の学生主体による国際交流活動と学習支援委員会のイベントとが有機的な連繋を得ようと得まいと、学習の必要を感じている学生や、能動的に参画しようとする学生のために“2gai café”と「ことばのフェスティバル」の継続開催は必要であろう。“2gai café”のイベントを覗いたことによって語学教育センターの語学講座に参加したり、それを機に「ことばのフェスティバル」への参加を決意したり、そのイベントで入賞したことを契機に現地留学へ赴くなど、極々僅かではあるが、学習支援委員会がもたらした機会や場所を踏み台に、世界へと跳躍する学生が現れてきているのだ。この僅かな「点」が「線」へ、そしてその「線」が「面」へと展開することを、我々は学習を支援する者として望んでや

まない。そのためにも、彼ら・彼女らにとっての能動的な“フック”となるイベントを、より魅力的なかたちを採りながら提供していくことが不可欠ではないだろうか。

最後に、これら学習支援委員会を中心とするイベント運営活動には、事前企画から当日運営、それは撤収の作業まで多くの業務が含まれる。それらを全て担当委員のみで消化することは到底不可能であった。委員以外の教員方、また関係事務部署の職員の方々の協力があってこそこのイベント催行であることをここに特記しておきたい。多角的な面から、多大なご協力を下さった本学教職員各位に、紙面を借りて改めて感謝申し上げたい。

### 参考資料：観覧学生によるアンケート記述（抜粋）

1. 国が違えば文化も違い、あたりまえのようにそこには考え方の違いも生まれると決めつけていましたが、本当に大切なことに関する考え方は、全世界共通であるということを知り、より心に響くものがありました。
2. とても良い会だと思えます。一般の学部生達にも広く知られるイベントになればいいなと思いました。
3. マレーシアの方の力強いスピーチに背中を押されました。ことフェスは、異文化を知る身近な機会であると思えました。みなさんそれぞれの言語を大変上手に話されるのを見て、その背景にある努力に感心すると共に私もより一層勉強をがんばりたいと思いました。そして、留学生の方々の人生観なども聞くことができ、とても参考になりました。
4. 留学生も日本人学生も同じ立場で発表できる良い機会だと思えました。
5. このようなイベントがあることを在学4年目にして初めて知りました。とてもいいイベントだと感じたので、今後も続いていくことだろうと思えます。
6. たとえ言葉につまってしまったとしても、まずはやってみようと思欲を持つことがすばらしいし、やりとげることが重要であると思えます。その後の人生の自信にもつながるすばらしいイベントだと思えました。スピーチをするだけでなく演出にもこだわった発表もあり、面白かったです。
7. 一人一人が楽しそうに、自分の興味に沿ったお話をしていたので、こちらも楽しく聞くことができました。私も第二外国語継続して学んでいこうと思えます。
8. 出演者さんの緊張が伝わってくるとともに、みなさんの努力なども伝わってきて、非常に感心した。私より年が1つ上なだけなのに、ぺらぺらと喋っている方もいて、努力とやる気があれば言語能力も成長できるのだと感じた。ことフェスは見ている側も頑張ろうという気持ちを一歩踏み出す勇気をもらえた。面白かったです。

9. 授業以外で第二外国語に触れた事がなく、どれくらい皆さんが話すのだろうと思っていたのだが、想像をはるかに越えた語学力とパフォーマンスだった。特に、私たちの母語である日本語は難しいはずなのに、スラスラと話していたマレーシアの留学生のスピーチには大変驚いたし、レストランを開きたいといていた舞台女優のような近大和歌山の学生さんのスピーチも凄いと思った。みんな素晴らしく、自分の「夢」を熱く語れるところが尊敬できた。聴くというよい経験ができた。

### 注釈

- 1 学生交流から始める国際化 その4 ―ことばを通じた教育的交流活動の報告及び今後の学習支援案― 酒匂康裕・林君穂・河野英二・中野徹 『近畿大学教養・外国語教育センター紀要（外国語編）』第4巻第1号 2013年（平成25年7月31日発行）参照。
- 2 「広報出版委員会（授業外活動による支援）2015年度活動報告」（内部資料）、「第二外国語学習相談室」開設目的の文言による。2016年5月21日。
- 3 「広報出版委員会（授業外活動による支援）2016年度活動報告」（内部資料）、「“2gai Café” week の開催及び活動」開設目的の文言による。2017年5月20日。